

## ●令和7年（2025年）の日本の地震活動

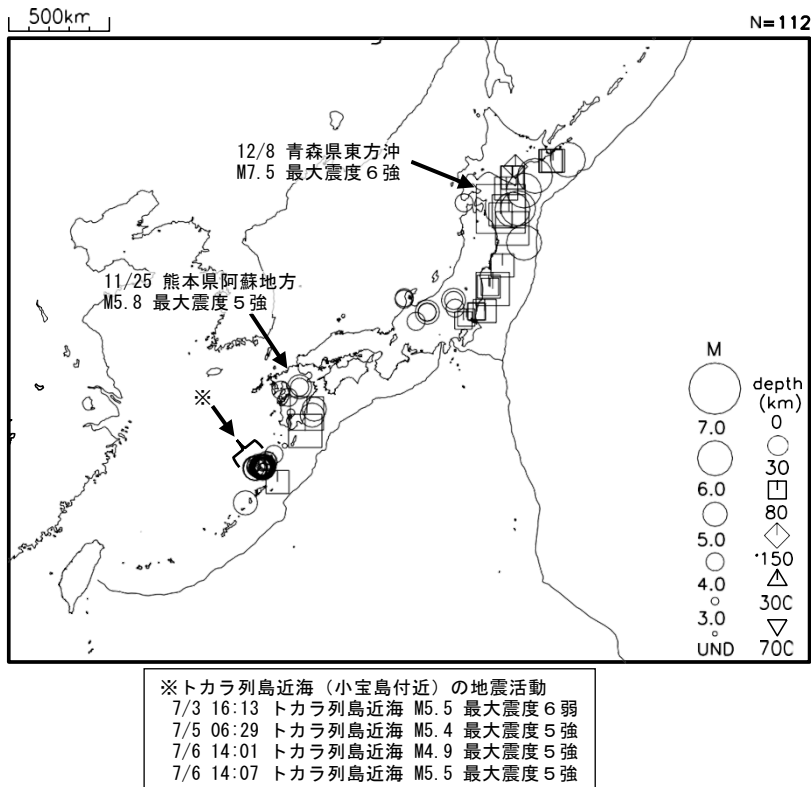


図1 2025年に最大震度4以上を  
観測した地震の震央分布図  
最大震度5強以上を観測した地震に矢印を付けた

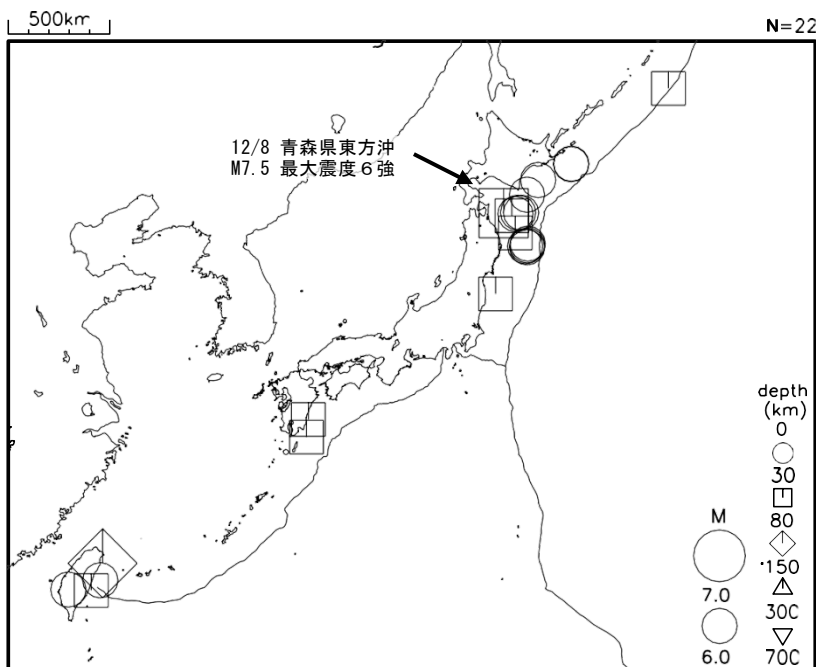


図2 2025年に発生した  
M6.0以上の地震の震央分布図  
2025年中で最大規模の地震に矢印を付けた

## 〔概況〕

2025年に国内で被害を伴った地震は7回（2024年は9回<sup>（注1）</sup>）発生した。このうち、死者・行方不明者を伴った地震は、7月30日（日本時間）にロシア、カムチャツカ半島東方沖で発生した地震（Mw8.8）<sup>（注2）</sup>の1回であった（2024年は1回<sup>（注1）</sup>）。

震度1以上を観測した地震は4,456回<sup>（注3）</sup>（2024年は3,678回）、最大震度4以上を観測した地震は112回（2024年は113回）、最大震度5弱以上を観測した地震は15回（2024年は28回）であり、2025年中に観測した最大の震度は、12月8日に青森県東方沖で発生した地震（M7.5）で観測された震度6強であった（図1）。

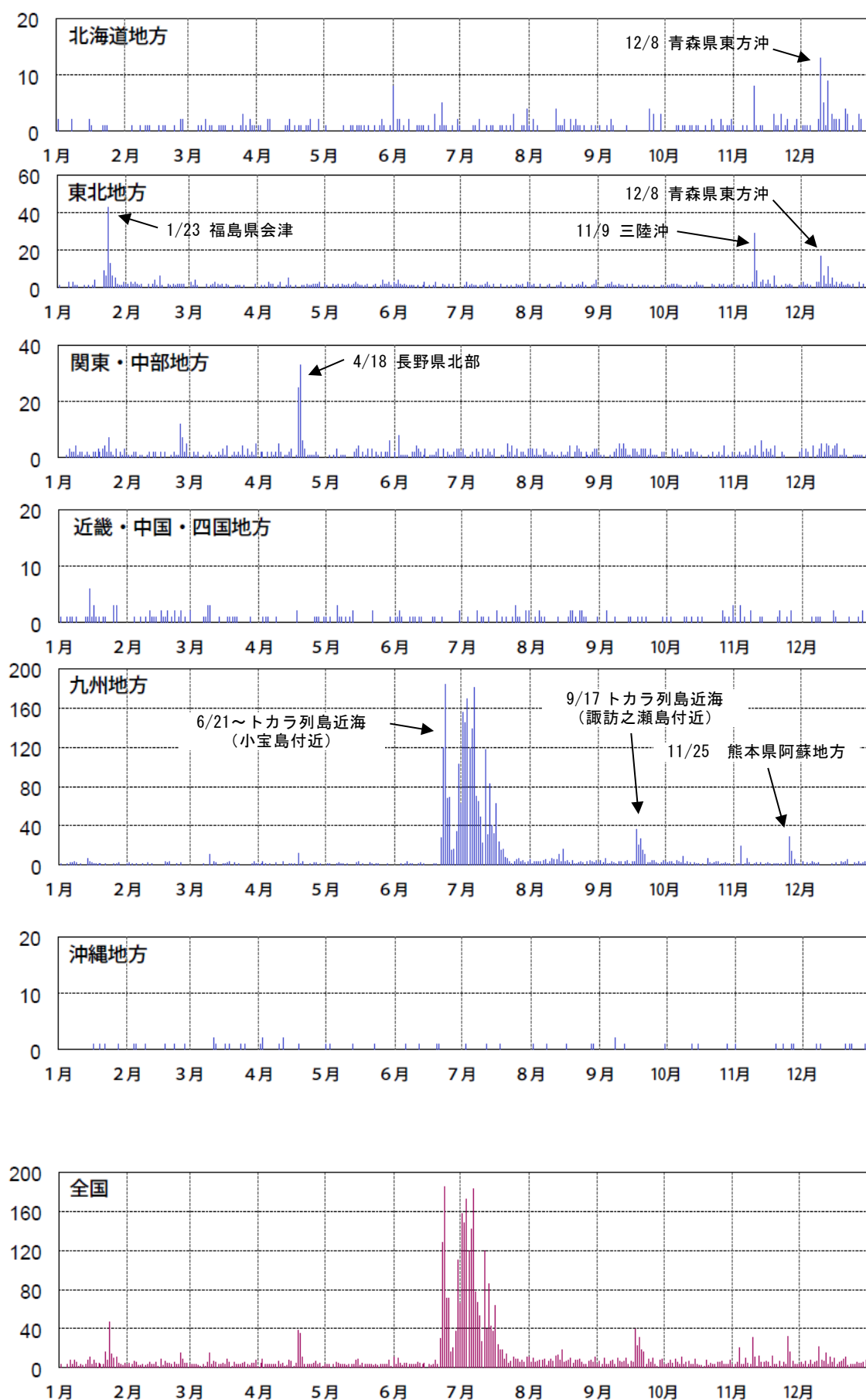
M6.0以上の地震は22回（2024年は30回）発生した。過去107年間の地震回数<sup>（注3）</sup>の中央値が16回（半数が入る範囲は13回から21回の間）であった（図4）。2025年中で最大規模の地震は、12月8日に発生した青森県東方沖の地震（M7.5）であった（図2）。

日本で津波を観測した地震（海外で発生した地震を含む）は、1月13日に日向灘で発生した地震（M6.6）、7月30日（日本時間）にロシア、カムチャツカ半島東方沖で発生した地震（Mw8.8）<sup>（注2）</sup>、11月9日に三陸沖で発生した地震（M6.9）、12月8日に青森県東方沖で発生した地震（M7.5）、12月12日に青森県東方沖で発生した地震（M6.9）の5回であった（2024年は4回）（図4）。また、大津波警報、津波警報、津波注意報の発表をした地震は、1月13日に日向灘で発生した地震（M6.6、津波注意報）、7月30日（日本時間）にロシア、カムチャツカ半島東方沖で発生した地震（Mw8.8、津波警報）<sup>（注2）</sup>、11月9日に三陸沖で発生した地震（M6.9、津波注意報）、12月8日に青森県東方沖で発生した地震（M7.5、津波警報）、12月12日に青森県東方沖で発生した地震（M6.9、津波注意報）の5回であった（2024年は4回）。

（注1）2024年1月1日以降の「令和6年能登半島地震」の被害については1回として扱った。ただし、2024年11月26日に発生した石川県西方沖の地震による被害を除く。

（注2）Mwは気象庁によるモーメントマグニチュード。

（注3）後日の調査で変更する場合がある。



2025 年の 1 年間に  
最大震度 4 以上を  
観測した地震回数  
(最大震度別)

最大震度	回数
4	97
5 弱	9
5 強	4
6 弱	1
6 強	1
7	0
合計	112

図3 2025年に震度1以上を観測した日別回数（全国及び各地方別）

6つの地方（北海道地方、東北地方、関東・中部地方（三重県を含む）、近畿・中国・四国地方、九州地方及び沖縄地方）に分割した。

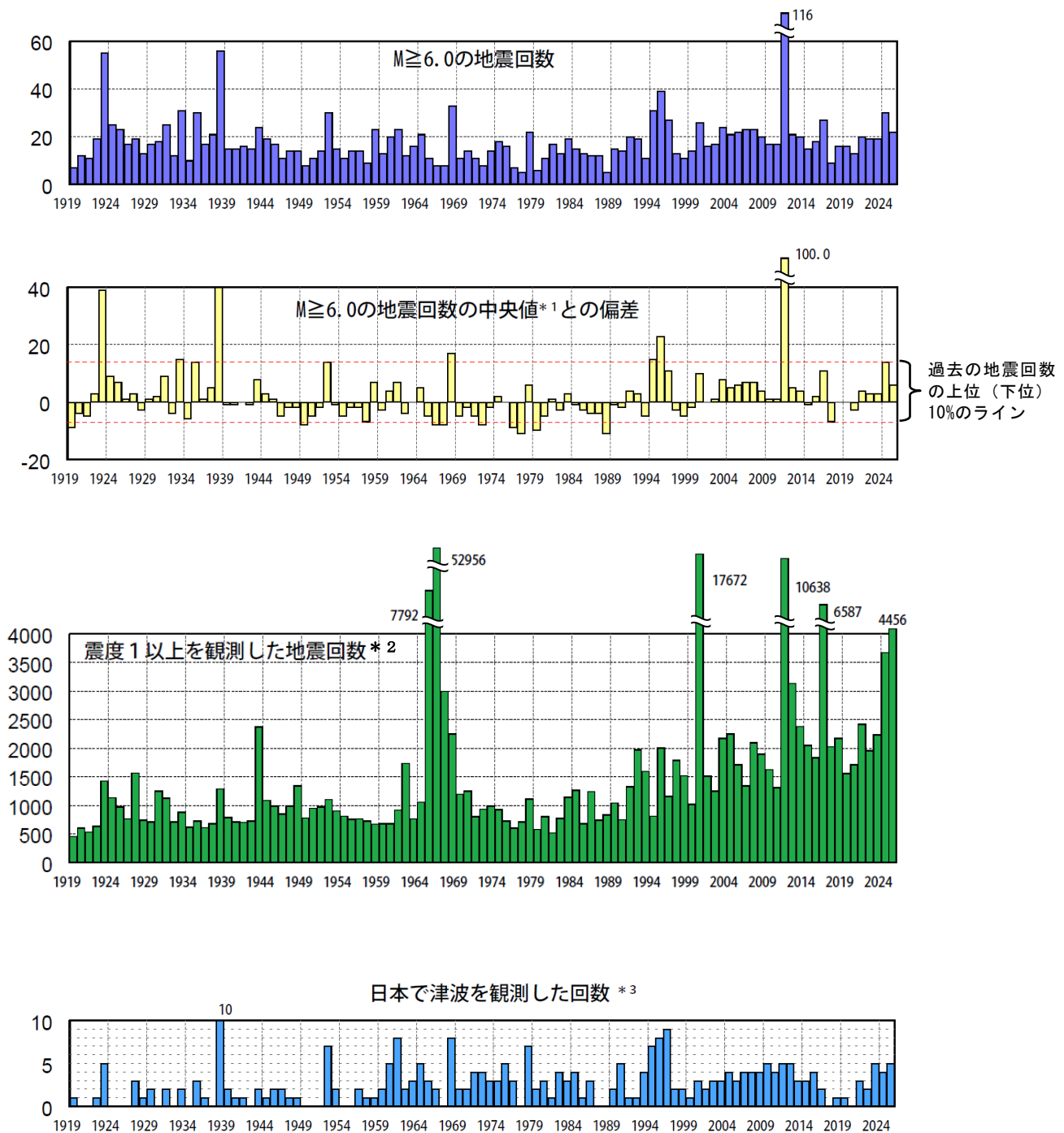


図4 全国の M $\geq$ 6.0 及び震度1以上を観測した地震の年別回数、津波を観測した年別回数（1919－2025年）

- \*1 M $\geq$ 6.0の過去107年間（1919～2025年）の中央値は16回／年であった。
- \*2 震度1以上を観測した地震の回数を比較するにあたっては、近年、震度観測点が増えたことを考慮する必要がある。なお、地震回数が多い1965～1967年には松代群発地震、2000年には新島・神津島の地震活動、2011年には「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」、2016年には「平成28年（2016年）熊本地震」、2024年には「令和6年能登半島地震」のM7.6の地震、2025年にはトカラ列島近海の地震活動が発生している。
- \*3 海外で発生した地震及び火山噴火による潮位変化を含む。集計には、験震時報、気象庁技術報告、その他気象庁が取りまとめた資料の他、Iida(1984)、渡辺(1998)を利用している。また、過去の津波を観測した地震回数については、津波の観測点数や観測手法等が異なるため、各年代をそのまま単純比較することはできないことに留意する必要がある。  
Iida, Kumizi(1984): Catalog of tsunamis in Japan and its neighboring countries, Aichi Institute of Technology, 52 p.  
渡辺偉夫(1998): 日本被害津波総覧（第二版）, 東京大学出版会, 236p.